



**新百合ヶ丘の地域社会の特性を生かした子育て支援の研究
—地域の子育て支援活動の需給構造の分析を中心に—**

(研究成果報告)

田園調布学園大学子ども未来学部

研究代表：内藤知美

共同研究者：安村清美・斉木美紀子・番匠一雅・仙田考・舟生直美

I-1 研究の目的

【研究の目的】

全国的に整備されつつある子育て支援が、川崎市麻生区（新百合ヶ丘）の地域社会における子ども・子育ての実情や保護者のニーズと乖離しない形で行われているのかという問いを出発点に、川崎市麻生区の子育ての実情や子育てに関わる社会資源を、他の市区町村（東京都世田谷区玉川地域、横浜市都筑区、横浜市青葉区）との比較から明らかにする。

川崎市の先行研究の検討から示唆された、知人・友人・家族・親族などの**個人的支援**と保育所・幼稚園などの**公的支援**による「**子育て支援の網目**」をさらに「**太く・細やかに**」構築するための、麻生区（新百合ヶ丘）のまちの社会資源を生かした子ども・子育て支援の可能性を探る。

I—2 研究の理論的枠組み

本研究の理論的枠組みとなるのが、三輪律江・尾木まり他が提唱する「まち保育」の考え方である。

子どもがまちで育つ「まち保育」の構造は4つのステージで示される。

- ①まちで育てる： まちのモノ・ヒトの活用
- ②まちで育つ： まちのモノ・ヒト・コトと子どもがつながる
- ③まちが育てる： 住民の「まちの子ども」への関心を誘発
- ④まちが育つ： 共に暮らすまちへ

引用：三輪律江・尾木まり編著（2017）まち保育のススメ. 萌文社 28頁

本研究では、子育ての孤立化を避けるだけでなく、まちの住民が巻き込み・巻き込まれながら、子育てを担う意識を醸成し、最終的には、子どもを核に多様な人々がともに暮らすまちを育てるという考え方に立ち、子育て支援の検討を行うものである。

II 研究の方法

1. 川崎市の行政資料を用いて、川崎市および川崎市麻生区の子ども・子育て施策の概要と子育て支援の特色を明らかにした。
2. 川崎市麻生区内の子ども・子育て支援活動の取り組みと麻生区内の子育て支援センターの立地等、子育て支援の現状を捉えるためにフィールド調査を実施した。
3. 川崎市麻生区の子育ての状況、特色および課題を示した。麻生区と人口や住宅地としてのまちなちの成り立ちに共通点があり、かつ子育て支援において先進地域と言われる世田谷区玉川地域、横浜市都筑区、横浜市青葉区とのアンケート調査による比較検討を行った。
なお、アンケート調査は、研究期間にコロナ禍の影響があり、ウェブアンケート調査を行った。実施期間は、2022年3月である。
4. ウェブアンケートと並行して、4地域のインタビュー調査を実施し、実態把握に努めた。インタビュー調査の対象者は、4地域で実際に地域の子ども・子育て支援に関わる支援団体のコーディネーターや支援者（川崎市麻生区4名、世田谷区玉川地域1名、横浜市都筑区1名、横浜市青葉区2名 合計8名）である。インタビューは、1人1時間半程度、対面およびオンラインで実施した。定量調査とリンクした調査項目に従って、半構造化面接法で行った。
5. 上記の1～4の結果を踏まえ、「まち保育」の視点から、川崎市麻生区の社会資源を活用した子育て支援の方策を提案した。

Ⅲ-1 結果

1) 国の子ども・子育て支援の施策



【国の施策】



【子ども・子育て支援法第59条】

- ①利用者支援事業
- ②延長保育事業
- ③実費徴収に係る補足給付に行う事業
- ④多様な事業者の参入促進・能力活用事業
- ⑤放課後児童健全育成事業
- ⑥子育て短期支援事業
- ⑦乳児家庭全戸訪問事業
- ⑧養育支援訪問事業
- ・子どもを守る地域ネットワーク機能強化事業
- ⑨地域子育て支援事業
 - ・乳幼児及びその保護者が相互の交流を行う場を提供し、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行う事業
- ⑩一時預かり事業
- ⑪病児保育事業
- ⑫子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）
- ⑬妊婦健康診査

引用：内閣府「子ども・子育て支援新制度なるほどBOOK(2016年4月改訂版)」より

2) 川崎市の子ども・子育て支援の施策



【自治体の施策（川崎市）】

川崎市子どもの
未来応援プラン

川崎市子ども・
若者ビジョン

川崎市児童家庭
支援・児童虐待
対策事業推進計
画

川崎市子ども・若者の未来応援プラン
～未来を担う子ども・若者が健やかに
育ち成長できるまち・かわさき～
(平成30年度～平成33年度)

3) 川崎市全体の子ども・子育てに関するアンケートによる実態調査より

川崎市こども未来局総務部
企画課「川崎市子育てに関するアンケート報告書」
(2017年11月)
回収数3,680件

川崎市こども未来局総務部
企画課「川崎市子ども・子育て支援に関する利用ニーズ報告書」(2019年3月)
回収数8,374件

【保護者の声】

子育てをしていると社会から取り残されているような気がする

子どもを育てるために我慢ばかりしている。

子育てを地域や社会全体で支える
雰囲気になればよいと思う
(90%)

【川崎市の子育てを取り巻く状況】

知人・友人・家族・親族などの個人的支援/保育所・幼稚園などの公的支援
先駆的な取り組み：①「川崎市子どもの権利に関する条例」(2000年成立、2001年4月1日施行) ②川崎市子ども夢パーク(2003年7月) など

4) 川崎市の子ども・子育て支援システムの全体像と特色

- (1) すべての地域住民を対象とした「川崎らしい都市型の地域包括ケアシステム」
- (2) 川崎市の人口動態にみる「将来的な子どもの減少」
- (3) 「子どもたちの笑顔があふれるまち・かわさき」構想(8つの視点にみる「地域」重視)
 - ・地域社会全体で子ども・子育てを支援する視点
 - ・地域の実情に応じた視点
- (4) 川崎市における子ども・子育て支援の特徴—行政主導による子ども・子育て支援—
区役所／子育て・教育関連施設／地域団体／公立保育所のノウハウによる支援
川崎市7区が同様(同一)の支援形態
- (5) 自治体による相違点:地域子育て支援事業の目的と実際
—川崎市と横浜市の子ども・子育て支援システムの比較—
 - ・子育て世代包括支援センター／子育て家庭に近い市民の力による地域のニーズに即した活動の展開



Ⅲ-2 川崎市麻生区の8つの子育て支援センターのフィールド調査(*一部、例として掲載)

	ちよがおか	ゆりの音	かきお	かたひら		トライアングル・ハグ	おかがみ	かるかも	みなみゆりがおか
立地	駅から15分程度かかる。住宅街にあるが、坂が多くベビーカーの使用等は困難が伴う。また付近は階段が多い。公園が隣接している。駅付近は車通りがあるが、施設付近はない。バス下車3分。	駅前商店街の先があり、アクセスは比較的しやすい。上り坂のため、子ども同伴およびベビーカー使用の場合は困難が伴う。	周辺は高低差が激しい。施設も坂の上にある。最寄りのバス停から訪れる際は、子どもの徒歩やベビーカー利用など、困難を伴う姿が予想される。車通りのある道路に横断歩道がない。	駅からのアクセスは良い。近隣に閑静な住宅街・小学校・療育支援センター・公園がある。駅からの道に下り坂がある。	立地	閑静な住宅街にある。駅から近く、交通量も少なく、通しやすい印象	車通りは少ないが、住宅街の奥の方に位置している。周辺地域は高低差あり。	駅から徒歩10分程度で、住宅街の中にある。最寄りに公園もある。閑静で、車通りも少ないが、若干の高低差があり、子ども同伴およびベビーカー使用の場合、多少苦勞がある。	駅から徒歩で約10分。閑静な住宅街にある。南百合丘小学校に隣接している。旧公立幼稚園を改良し、地域子育て支援センターとなった。
外観	古くからある建物の印象。	保育所に併設されており、外観は古い印象。	古くからある建物の印象	古くからある建物の印象	外観	保育所に併設されており、施設は新しい印象。子育て支援センターは2階にある。	建物は古いように見える。	保育所に併設されており、施設は新しい。支援施設は2階に位置する。	公立幼稚園を子育て支援施設に改良したため、新しくはないが、木造の広い室内空間と広い園庭がある。
駐輪場	あり	あり	あり	あり	駐輪場	あり	あり	あり	あり
ベビーカー置き場	あり	あり	あり	あり	ベビーカー置き場	あり	あり	あり	あり
駐車場	なし	なし	なし	なし	駐車場	なし	あり(別施設と併用)	なし	なし
バリアフリー	なし(子育て支援センターは1階に有り段差などもない)	なし(子育て支援センターは1階に有り段差などもない)	外から内へのスロープがあるが、室内から2階へは階段を利用	施設は2階にあり、階段を利用。	バリアフリー	なし(部屋は2階にあり、階段を利用する)	外から内へのスロープあり。	なし(部屋は2階にあり、階段を利用する)	外から内へのスロープあり。1階にある。

フィールド調査項目：立地、外観、駐輪場、ベビーカー置き場、駐車場、バリアフリー、利用者の居住地域、開催イベント一時保育の有無、情報発信、遊具・玩具、コロナ対策など

Ⅲ-3 Webアンケート調査(定量調査)とインタビュー調査(定性調査)からの川崎市麻生区の子ども・子育て支援の実態



1) 定量調査(社会調査)「まちの子育て環境に関するおたずね」:川崎市麻生区、東京都世田谷区玉川地域、横浜市都筑区、横浜市青葉区の比較調査(社会調査会社マクロミル:サンプル数 297件)

地域	最大可能サンプル数	目標サンプル数	回収サンプル数	対目標回収率	人口
川崎市麻生区	74	70	53	76%	18万人
世田谷区玉川地域	105	70	84	120%	22万人
横浜市都筑区	98	70	72	103%	21万人
横浜市青葉区	129	70	88	126%	31万人
合計	406	280	297	106%	92万人

「まち」の社会資源に注目したアンケート調査の分析項目(クロス分析含む)

- A: 回答者の属性(7項目)
- B: 家庭内子育て環境(4項目)
- C: 子育ての実態と心理状況(10項目)
- D: 保育施設等の利用実態(7項目)
- E: 子どもと一緒に出かけるまちの行動パターン(16項目)
- F: 住んでいるまちの子育てからみた評価(6項目)
- G: 「まち保育」の認知および参加意向(9項目)
- H: コロナ禍への子育てへの影響(2項目)
- I: 子育てに関する自由記述から

2) 地域比較の結果から(*一部掲載)



【麻生区】上位5件

1. 自然が豊かで公園・外遊びの場が多い
2. 犯罪・危険が少ない
3. 保育施設を利用しやすい
4. 職場との距離・アクセスが良い
5. 祖父母、親戚などの協力が得られる。

【4地域比較】4地域中4位の項目

- ・子育て情報が入手しやすい
- ・子育て仲間が多い
- ・利用できる子育て支援施設が多い
- ・祖父母、親戚などの協力が得られる

図12 子育てのための立地条件(*複数回答)

3) 地域比較の結果から (*一部掲載)



図15 地域別子育ての不安やストレス

【麻生区】
他地域と比較して、子育ての不安やストレスは平均より低く、「とても楽しい」「楽しい」という子育ての楽しさの実感が高い。



図19 地域別子育ての楽しさの実感

【その他クロス集計を行った内容】

- ・ 回答者の年齢との関連
- ・ アウェイ保育との関連
- ・ (自身が捉える) 生活水準との関連

4) 地域比較の結果から(*一部掲載)

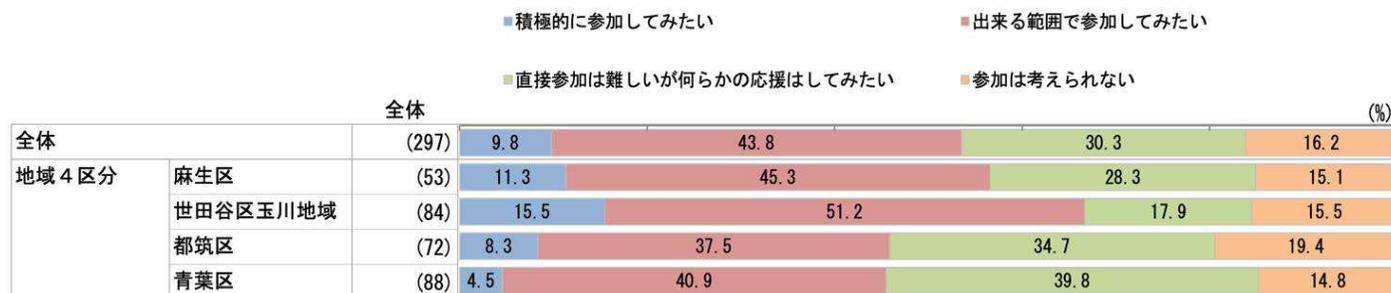


図56 「まち保育」への参加意向

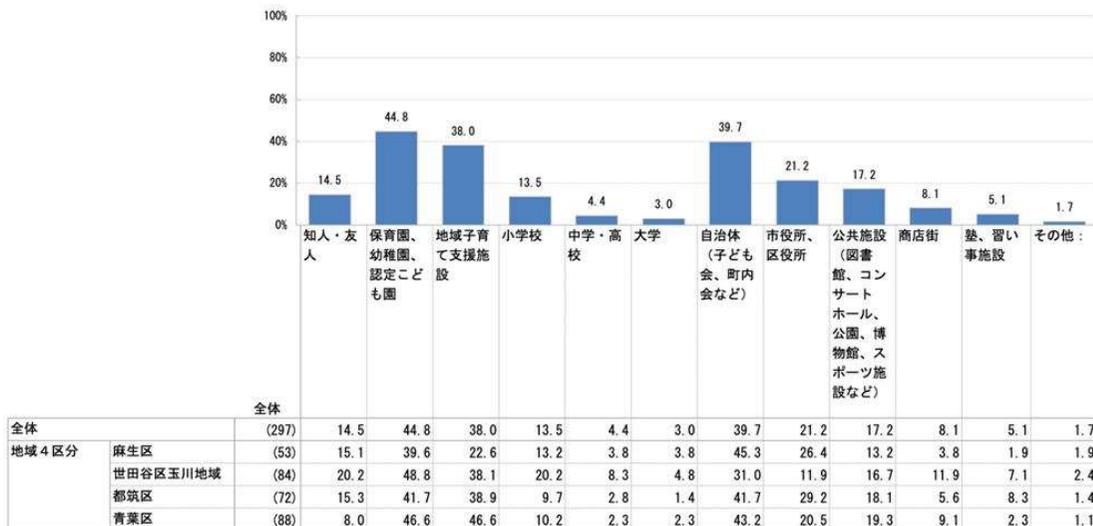


図57 「まち保育」イベント主催者の認知度(*複数回答)

【麻生区】

図54の質問である「まち保育」の認知度は、世田谷区玉川地域が最も高く、麻生区が最も低いですが、参加意向は、「積極的に」「出来る範囲で」参加してみたいは、世田谷区玉川地域について2番目に高い。子どものイベント・活動における実施主体者として、「子ども会・町内会など」の認知度が高いのが特色である。

【その他クロス集計を行った内容】

- ・保護者の年齢との関連
- ・子育ての不安やストレスとの関連
- ・1人目の子どもの年齢との関連
- ・(自身が捉える)生活水準との関連

5) 地域比較の結果から (*一部掲載)

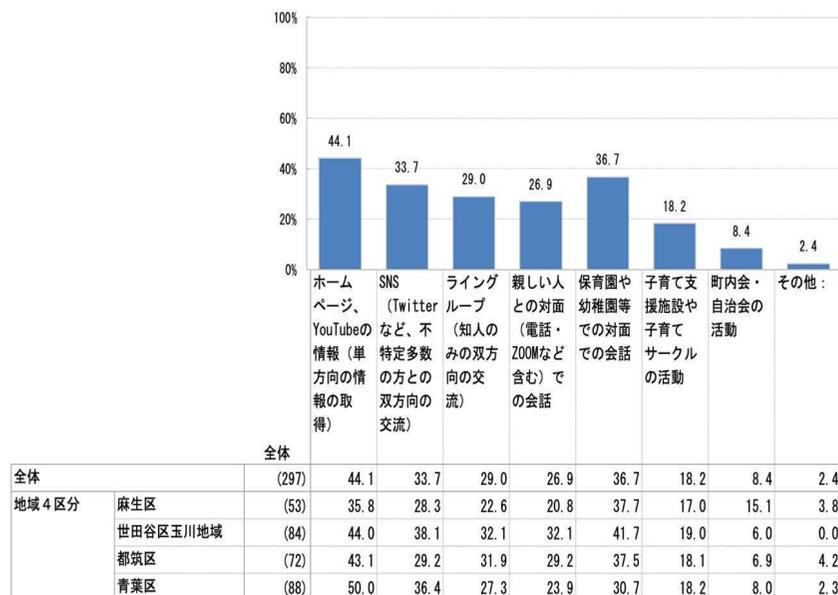


図62 コロナ禍での子育て情報の入手先 (*複数回答)

【麻生区】他地域と比べ、情報の入手が平均より全体的に低い傾向がある。町内会・自治会からの情報の割合が高い。

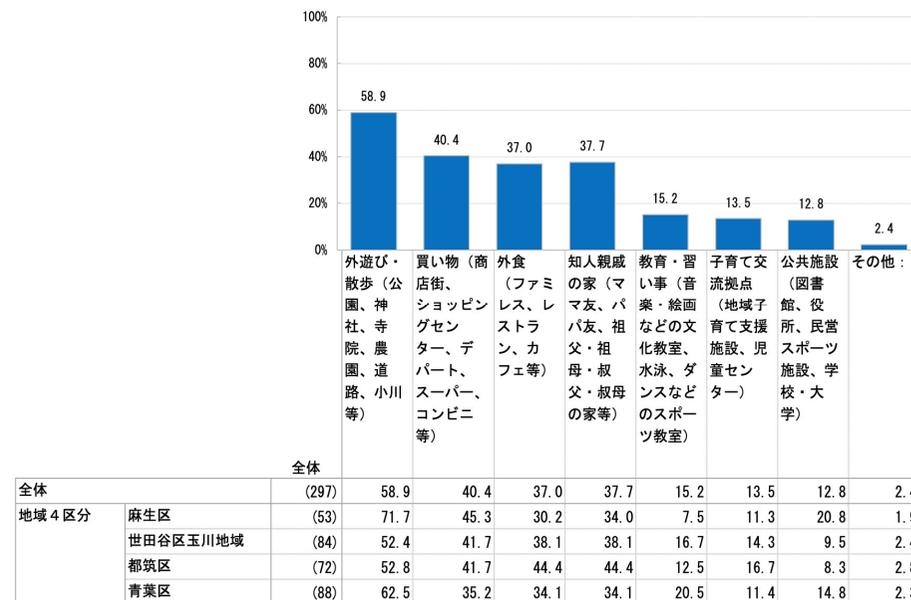


図63 コロナ収束後に子どもと出かけたかった場所 (*複数回答)

【麻生区】他地域と比べ、外遊び・散歩や買い物への希望が高い。公共施設への希望も比較的高い。

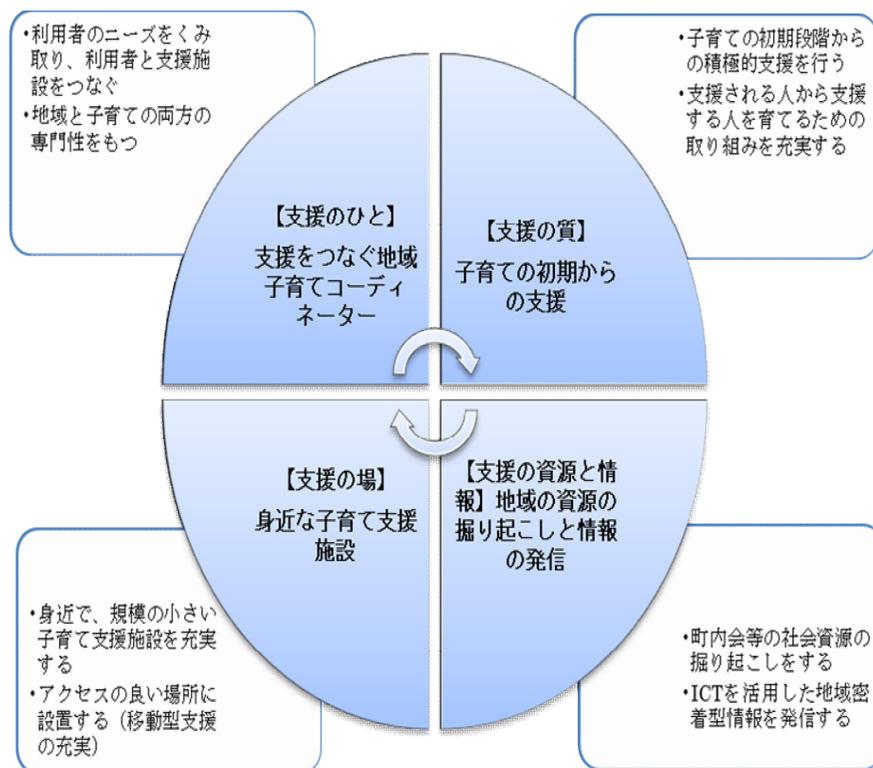
6) インタビュー調査の項目と麻生区の子育ての状況のまとめ

①	Face Sheet: 氏名をアルファベットで記載・所属・子育て支援経験歴
②	Face Sheet: 対象地域の子ども・子育て支援との関わり・役割
③	<p>【4地域の子育て支援の全体像】</p> <p>* 現在、子育て支援の状況について</p> <p>* 地域の利用者について（利用する親子、親・子の年齢、近隣の人かどうか?）</p>
④	<p>【子育てに対する保護者の希望・要望の実態】</p> <p>* イベント型、親子の広場型、親のリフレッシュ型(ヨガなど)、子育て相談、子育てに関する講演など、子育て支援のタイプ別のニーズについて</p> <p>* 子育て支援のニーズに変化や特徴について</p>
⑤	<p>【子育て支援の特徴（*公的取り組みと私的取り組みについて捉える）】</p> <p>1) 親子の居場所づくり 2) 子育て相談 3) 情報収集・提供 4) 子育て親子のつながりを支えること 5) 子育て支援の学びの場の提供 6) その他の中の取り組みの割合について</p>
⑥	<p>【まち保育の視点から、地域（まち）の子育てに関する資源（遊び場や公園など）の認知度および子育てへの参画度】</p> <p>* 地域の資源や特色を生かした子育て支援の取り組みについて</p> <p>* 利用者が「地域とつながり」をもったり「支援される人が支援者になる」ための支援のあり方と具体例</p>
⑦	<p>【地域（まち）における子育て支援を阻む要因：課題や困難さ】</p> <p>どのような点がどのように改善されれば、子育てをしやすい地域（まち）となるか?</p>
⑧	<p>子育て中の家族の支援において大切にしていることおよび地域（まち）ならではの子育ての支援のビジョン*コロナ禍（With）およびコロナ禍を経て（After）、4地域（まち）に必要とされる子育て支援のあり方</p>

【麻生区の子育て状況のまとめ】

川崎市麻生区の子ども・子育ての状況は、主に核家族、父・母（あるいはパートナー）の協力による、一戸建てでの、職場（仕事）を意識して子育てを行っている生活スタイルであった。現状では経済状況や心理面からも安定した子育て状況であるが、他地域と同様に不安・ストレスもある。子どもを安心・安全な場で外遊びをさせることができる環境を求める傾向が強い。他地域に比べ、子育てに関わる状況の把握や問題意識は相対的に希薄であり、子育て支援施設などの活用や認識も若干低い。子ども会・町内会などは地域の特色ある社会資源であるが、他の人との交流や地域に助けを求める割合が低い。子育ての行動パターン（所要時間を含む）にみられるように子育て中の居場所や情報へのアクセス方法が少ないことから、「閉じた子育て」になりやすい。子育ての悩みや不安が表出されにくいことや他者の助けを借りない点が課題である。特に出身地ではない引っ越し家庭が多く、地域との接点がないことで、子育ての困難感が増す懸念がある。

IV 考察および提案—子育て支援の場・ひと・質・社会資源の掘り起こしと情報発信—



1. 子育て支援の「場」

・子育て支援拠点のない空白地域に、**規模の小さい身近な子育て支援**の場を作る（=子育て支援グループ、移動型施設の支援等）

・保護者のニーズであるまちでの買い物や外遊びの途中にふらっと立ち寄れるお気に入りの場を作り、**滞在場所の選択肢**を増やす。（=商業施設のある新百合ヶ丘駅近辺、麻生区内のカフェの活用、公園等に隣接する空き家・スペースの活用、大学の活用等）

2. 子育て支援の「ひと」

・まちを知り、親子とまちをつなぐ「**地域子育てコーディネーター**」を置き、子育てのセーフティネットをきめ細やかにする。

3. 子育て支援の「質」

・**子育て初期からの働きかけ**を行う。保育所に通う/通わない両方の親子を支える支援を行う。一時預かりの目的を狭めず、保護者の「時間」を保障し、**一時預かりを充実**させる。

・イベント型と「**子育ての学び合い**」の**機会**となる支援の場を作る。まち保育への参加意向が比較的高いので、子育て支援の場での交流や学びあいを通じて、まち(地域)への参画を促す。

4. 地域にある子育てにかかわる社会資源の掘り起こしと情報発信

・子ども会や町内会など、**麻生区**の**社会資源**をさらに掘り起こす。出身地ではない家庭も多いため、**麻生区地域密着型の情報発信**を行う。その際、施設等の紹介にとどまらず、支援へのアクセスがさらに進む情報発信の仕方を、ICTを活用して進める。

V 引用・参考文献

- ・荒牧美佐子・無藤隆(2008). 育児への負担感・不安感・肯定感とその関連要因の違い：未就学児を持つ母親を対象に. 『発達心理学研究』第19巻 第2号. 87-97
- ・猪熊弘子 (2016) 区民とともに「保育の質」を高める—世田谷区の取り組み—. 『発達』146号Spring. 26-31
- ・大豆生田啓友/三谷大紀編 (2020). 最新保育資料集. ミネルヴァ書房
- ・大豆生田啓友 (2016) 地方発の保育・子育て支援の新たな可能性—新制度時代の協働のデザイン—. 『発達』146号Spring. 2-7
- ・奥山千鶴子 (2016) 子育て支援のコーディネーター利用者支援事業への期待—. 『発達』146号Spring. 44-49
- ・川崎市こどもみらい局総務部企画課「川崎市子育てに関するアンケート報告書」(2017年11月)
- ・川崎市こどもみらい局総務部企画課「川崎市子ども・子育て支援に関する利用ニーズ調査報告書」(2019年3月)
- ・川崎市子ども・子育て支援事業計画「子どもの未来応援プラン～子どもたちの笑顔があふれるまち・かわさき～ 2015年度～2019年度」(2015年3月 川崎市)
- ・川崎市こどもみらい局総務部企画課「第2期 川崎市子ども・若者の未来応援プラン」(2022年3月)
- ・佐藤美樹・田高悦子・有本梓(2014)「都市部在住の乳幼児を持つ母親の孤独感に関連する要因—乳幼児の年齢集団別の検討」日本公衆衛生雑誌 第61巻 第3号 121-129
- ・樋口耕一 (2014) 『社会調査のための計量テキスト分析』ナカニシヤ出版
- ・松田妙子 (2016) 私たちにも役割がある！区民版子ども・子育て会議のつくりかた. 『発達』146号Spring. 62-67
- ・三輪律江・尾木まり編著 (2017) まち保育のススめーおさんぽ・多世代交流・地域交流・防災・まちづくり—. 萌文社
- ・山崎亮(2012) コミュニティデザインの時代—自分たちで「まち」をつくる. 中公新書



付記:まちを構成する一員である「子ども」の視点を入れたまちづくり、地域づくりの調査・研究が今後の課題である

【研究理論の参考イメージ】
「まちを活用した子育て支援は、親子のまちへの愛着や貢献を生み、まちの成長につながる」
【提供】八潮幼稚園・5歳児